

「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業 事業結果報告書

調査研究テーマ	教育テックを活用した養成校連携モデル構築事業		
申請者 (機関名)	学校法人 OCC		
申請機関 代表者	ふりがな 氏 名	やまもとじゅんこ 山本淳子	
	所属部署	大阪キリスト教短期大学	職名 学長
	所在地	大阪府大阪市阿倍野区丸山通1丁目3-6 1	
実施期間	令和6年7月1日から 令和7年1月31日まで		

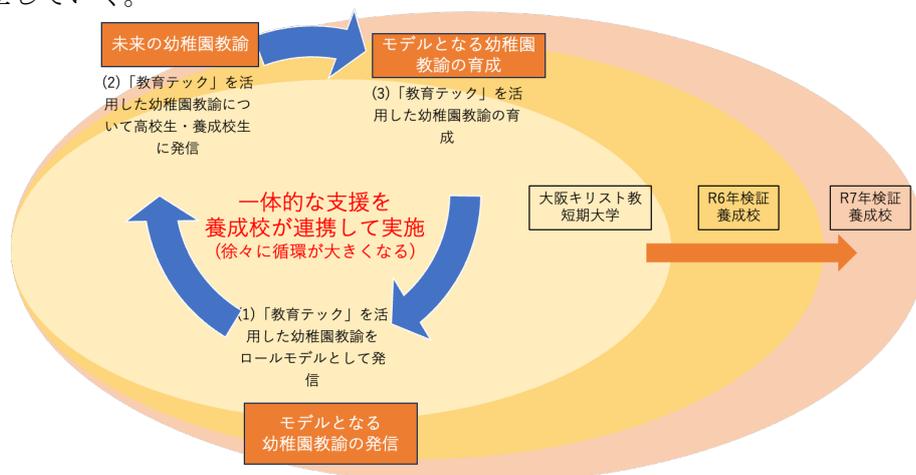
A) 調査研究の目的並びに成果及び今後の課題 (研究の要旨を含む)

A-1) 調査研究の要旨

本研究は、「幼児教育 × ICT」養成校プラットフォームの構築を目的とし、幼稚園教諭の魅力向上と養成校間の連携強化を目指したものである。本プロジェクトは大阪キリスト教短期大学が主導し、10 大学に相談を行った。最初の連携先大学との連携協定は締結され、将来的には全国の養成校へ展開することを視野に入れている。

本調査では、ICT を活用した新しい幼稚園教諭のロールモデル発掘、オープンキャンパスでの ICT 活用、eラーニングによる資質向上の3つの主要施策を実施し、各施策の効果を分析した。その結果、「幼児教育×ICT」の発信により、幼稚園教諭等志望者の増加(約4.8%)が見込めること、特にオープンキャンパスでのICT活用が有効であること、eラーニングの導入が現職者・学生双方に好評であったことが分かった。

一方で、単独の大学での実施は人的・財政的負担が大きいため、大学間連携による継続的な運用が必須であること、プラットフォーム運営のコスト(年間約30万円)は軽微ながら、連携を円滑に進めるためのコミュニケーションコストが課題であることが明らかになった。今後は、大学間連携を強化し、民間企業との協業や文部科学省の支援制度の活用を視野に入れながら、プラットフォームの持続的な運用を確立していく。



A-2) 調査研究の目的及び内容

目的

本研究の目的は、幼児教育×ICTを活用した新しい養成校連携モデルを構築し、新たな幼稚園教諭の魅力を発信し、幼稚園教諭の魅力向上に資することである。具体的には、ICTを活用することで、未来の幼稚園教諭像や、キャリアの多様性を訴求し、養成校生や高校生に対して魅力的な職業選択肢として提示すること、さらに、養成校間の教育資源を共有し、教育の質向上と幼稚園教諭等不足の解決に寄与することを目指す。

内容

① ICTを活用した「新しい幼稚園教諭ロールモデル」の発掘と発信

- ・幼稚園教諭の多様なキャリアパス（ICTを活用した男性教諭）を取材・発信
- ・養成校生や高校生に向けた情報提供を通じて職業理解を促進



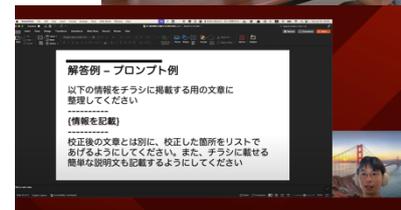
② ICT活用によるオープンキャンパスの強化

- ・スマートエデュケーション社の「キッツ」を活用した体験プログラムの開発
- ・他養成校との共同プログラム開発を推進し、展開方法を模索



③ eラーニングを活用した資質向上プログラムの開発

- ・幼児教育×ICTをテーマにしたeラーニングコンテンツの開発・提供（生成AI）
- ・養成校生および現職教諭を対象に、オンライン学習の機会を提供
- ・LMSを活用し、学習進捗を管理



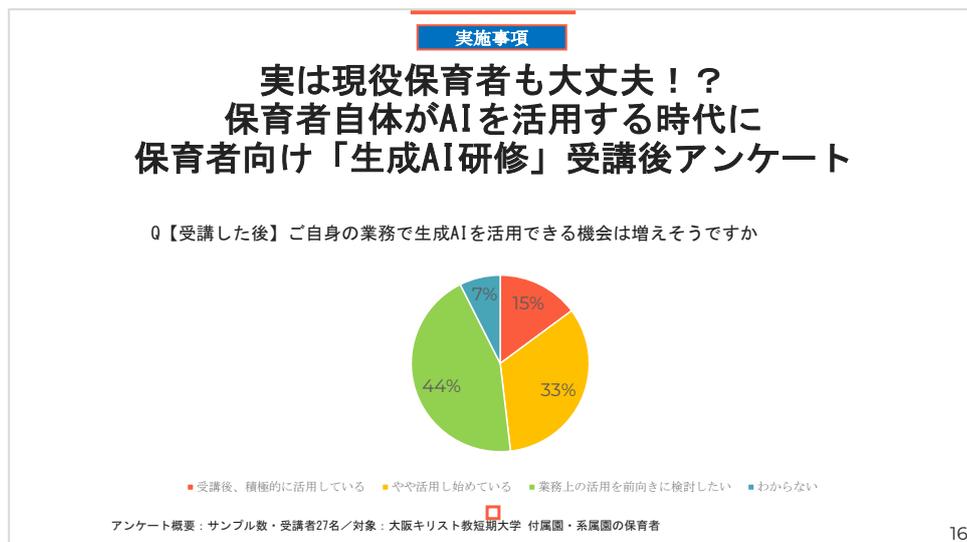
④ 大学間連携とプラットフォーム運営の確立

- ・10大学に声かけを行い、結果として新潟青陵大学との連携に繋がった。今後は、全国展開も視野に入れる
- ・民間企業との共同出資会社（株式会社教育テック総研）を活用し、継続的な運営基盤を整備

A-3) 調査研究の成果及び今後の課題

調査研究の成果

1. 幼稚園教諭の魅力向上につながる ICT 活用の有効性を確認
 - ICT を活用した情報発信により、幼稚園教諭等志望者が約 4.8%増加 (算出の前提)
 - ・大阪キリスト教短期大学 2025 年度入学者数は 94 名。
 - ・うち、ICT+幼児教育を学ぶ教育テックコースへの進学者数は 9 名 (9.6%)。
 - ・IT 教育を全面に推進する中で、2024 年度の教育テックコース進学者の 50%が 1 年 12 月時点で幼稚園教諭等志望。
2. 養成校間の教育連携の可能性を示す
 - 単位互換ではない場合、すぐにも大学間での共同カリキュラム開発・教育リソース共有が現実的であることを確認
 - eラーニングを活用した教育の質向上が可能であることを実証
 - 幼稚園教諭等向けの「生成 AI 研修」では、業務効率向上・知識獲得・情報共有の面で高評価



今後の課題

1. 大学単独での実施の負担軽減と持続可能な運営体制の確立
 - 単独の大学では人的・財政的負担が大きいため、大学間連携の強化が不可欠
 - 運営コスト（年間約 30 万円）は軽微だが、連携のためのコミュニケーションコストをどう最小化するかが課題
2. ICT を活用した教育の効果測定とカリキュラム改善
 - ICT 活用による学習成果を定量的に評価し、教育の質保証を進める
 - 学生・現職者のニーズに基づいたカリキュラム改善を継続的に実施
3. eラーニングの全国展開と資金確保
 - LMS を活用した教育コンテンツの全国展開を進める
 - 文部科学省の支援制度（少子化対策支援）などを活用し、財源を確保
 - 民間企業との協業による収益モデルの構築

大学間連携を支援するため、株式会社教育テック総研などの民間組織と協業し、持続可能な収益モデルを確立。今後は、大学間連携と民間企業との協業を強化し、「幼児教育×ICT」養成校プラットフォームの全国展開を進めることで、幼稚園教諭等不足の解消と教育の質向上を両立させる仕組みを確立していく。

B-1) 実施体制について

プロジェクト責任者

- ・山本淳子（学長）

プロジェクトリーダー

- ・原山青士（産官学連携推進センター長補佐、特任准教授）

プロジェクト推進チーム、他養成校教職員との意見交換会運営事務局

- ・野原靖（事務局長/入試広報部長）
- ・竹石亨（総務部長）

（1）「教育テック」を活用した幼稚園教諭をロールモデルとして発信 ～幼稚園教諭ロールモデルの発掘とインターネットでの発信～

- ・鈴木健介（広報マーケティング部長）
- ・延知奈美（産官学連携推進センター）
- ・関原壮大（産官学連携推進センター）
- ・宮田光（産官学連携推進センター）

（2）「教育テック」を活用した幼稚園教諭について高校生・養成校生に発信 ～ICTを活用した幼児教育の魅力発信のパッケージ化～

- ・河崎雷太（学長補佐、教授）
- ・野原靖（事務局長/入試広報部長）
- ・江口良浩（入試広報課長）
- ・西脇一貴（入試広報課）
- ・杉岡幸代（准教授）
- ・川畑尚子（准教授）
- ・堀内夕子（准教授）
- ・山崎圭世子（准教授）

（3）「教育テック」を活用した幼稚園教諭の育成 ～研修の開発とeラーニングでの展開～

- ・延知奈美（産官学連携推進センター）
- ・河崎雷太（学長補佐、教授）
- ・関原壮大（産官学連携推進センター）
- ・宮田光（産官学連携推進センター）

B-2) 組織図及び体制図

